日本SPF豚協会だより
Report of JAPAN SPF Swine Association 2010.4 第39号

提◆言

協会40年を振り返って

北海道大学名誉教授
日本ＳＰＦ豚協会ＳＰＦ豚農場認定委員会委員　波岡　茂郎

日本ＳＰＦ豚協会が幾多の困難を乗り越えて、2009年に創立40周年を迎えたことは感無量であります。1969年（昭和44年）に当協会が設立されたときの関係者の一人としてまことに喜びに堪えません。

協会発足当時、わが国の行政は「ＳＰＦ豚の作出は国の研究機関における実験動物としては認めるが、いわゆる畜産目的の“豚の集団変換”に対しては反対である」との方針に固執していました。農水省畜産局(当時)の某審議官は「畜産目的のためのＳＰＦ豚作出はあくまでも民間主導型で行うべきで、国がこれに関わるべきではない」と公言していました。しかし、結果としてこれが幸いして、現在法人格の協会として活躍することができたのです。

1969年10月18日に事実上のＳＰＦ豚協会が設立され、初代の会長にはアミノ飼料㈱中央研究所（当時）の有吉修一郎所長が選ばれ、次の課題があげられました。1）日本ＳＰＦ豚協会と称し、任意団体とする。2）ＳＰＦ豚作出、使用および取引は各会員の責任において行う。3）ＳＰＦ豚のＰＲ、雑誌『ＳＰＦ　Ｓｗｉｎｅ』の発行、研究会の開催。4）官庁との接触。

なお、会長はその後住商飼料畜産㈱（当時）の本田英三社長に引き継がれましたが、氏のＳＰＦ豚事業に関する熱意と努力が、その後のわが国におけるＳＰＦ化に大きく寄与したことは特記すべきことです。また、この間に早々に千葉県畜産センター養豚試験場で独自のプライマリーＳＰＦ豚作出施設を菅野場長（当時）らが立ち上げ、富里市の佐々木農場を原種豚およびＰＳの受け皿としてＳＰＦ豚の多頭飼育を実行したことも大いに力づけられました。

本田氏のあとを引き継いで赤池洋二氏が協会長を引き受けた当時は、協会の存続を左右しかねない、まさに天王山を迎えましたが、赤池会長の采配によってその頃から養豚界にかなり理解されつつあったＳＰＦ豚の普及に伴い、協会によるコントロールが発揮されるようになってきました。

同時にその頃、畜産関係誌で最も権威ある『畜産の研究』（養賢堂）の編集長・鈴木章氏が、雑誌の巻頭言で数回にわたり「原種豚をＳＰＦ化しなければ、日本の養豚産業の前途は期待できない」と、きわめて論理的な内容の文章を発表しました。この発表内容は、畜産界はもちろんのこと、農水省などの関係者にも大きなインパクトを与え、もはやそれを行うか行わないかにかかわらず、わが国でＳＰＦ豚の畜産目的に否を唱えることはほとんどなくなりました。

そこで協会としては今後いかにＳＰＦ豚農場の普及と発展を加速化させるかについて努力してきましたが、これは高度な技術を持つ養豚家の育成なしには達成できないと同時に、効果的なＰＲが必要でした。

前者については認定制度を設け、一定の基準を満たした農場のみを協会で認定していることはご承知のとおりです。また、後者については、一つの例として国際食品見本市（Ｆｏｏｄｅｘ）への出展など、あらゆる機会に種々のＰＲ活動が行われてきました。

また、当初ＳＰＦ豚協会は任意団体として出発しましたが、長年の実績を背景に赤池現会長らの努力によって現在は法人として認められており、ＳＰＦ豚農場のますますの発展が望まれるところです。

ＳＰＦ豚の飼育には高度な技術が要求されます。ＳＰＦ豚が病原不在で健康な豚だからといって家畜管理学的基礎知識を無視し、密飼い、換気不良、室温調整などの不備を放置すると、その生産性は著しく阻害されることを忘れてはなりません。生産者も創意工夫して得られた技術を協会に還元するような努力がなされてしかるべき段階にきているのではないでしょうか。

ＳＰＦ種豚と認定農場の分布

（2010年3月末現在）

表1. 認定農場の分布

飼養母豚数	北海道	東北	関東	北信越	東海近畿	中四国	九州	合計	母豚総頭数
99以下	2	0	6	0	0	3	0	11	656
100～299	7	8	29	5	2	2	7	60	10,505
300～599	4	6	11	3	1	8	7	40	16,638
600～999	2	12	3	2	0	2	7	28	22,412
1,000以上	0	9	2	0	0	1	9	21	27,917
計	15	35	51	10	3	16	30	160	78,128
育成・肥育専門農場	1	3	8	5	0	1	9	27	
合　計	16	38	59	15	3	17	39	187	
母豚総頭数	4,714	26,459	14,020	3,682	215	6,635	22,403	78,128	

表2. 認定農場数および飼養母豚数の推移

年度	2005年度		2006年度		2007年度		2008年度		2009年度	
地域	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数
北海道	14	4,035	15	4,482	15	3,590	15	4,962	15	4,714
東　北	31	18,949	31	19,018	35	23,227	35	26,285	35	26,459
関　東	57	16,522	57	17,315	57	14,327	50	13,567	51	14,020
北信越	10	2,937	10	3,019	11	3,782	11	3,812	10	3,682
東海近畿	2	815	2	813	2	792	3	218	3	215
中四国	21	7,245	20	7,007	16	6,569	18	7,118	16	6,685
九　州	33	19,867	35	21,374	32	19,439	28	19,182	30	22,403
育成・肥育専門農場	11		12		17		24		27	
全　国	179	70,370	182	73,028	185	71,726	184	75,144	187	78,128

やむを得ない事情により認定を休止している農場については、戸数は集計に含め、飼養頭数は含めない。認定農場数は187（ＧＧＰ・ＧＰ農場20、子豚育成・肉豚肥育専門農場含む）、飼養母豚数は７万8,000頭強である。昨年度に比べ農場数はほぼ横ばいながら、飼養頭数は3,000頭近く増加した。これは、小規模農場が退会する一方で、大型農場の新規認定があったことによる。地域別では九州地区が増加、他の地域は横ばいおよび減少となった。

全国の飼養母豚数93.6万頭（平成21年２現在、畜産統計）に占める認定農場ＳＰＦ豚の割合は8.4％である。

ＣＭ認定農場の生産成績

（2009年度）

表1 一貫生産農場

	件数	母豚数	農場回転率		農場飼料要求率		出荷頭数／母豚		Ａ薬品費／肉豚		生産指数
	116	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00	100.00
A	29	505	1.93	17.03	3.03	26.23	22.79	42.70	55	36.21	122.13
B	29	383	1.74	15.34	3.27	24.36	21.29	39.70	110	32.32	111.91
C	29	428	1.70	14.98	3.29	24.19	20.76	38.90	217	24.82	102.89
D	29	455	1.59	14.06	3.40	23.38	19.51	36.55	325	17.25	91.25
最高成績			2.28	20.08	2.73	28.58	25.65	48.05	0	39.97	133.31
最低成績			1.20	10.56	4.14	17.58	14.41	26.99	439	9.32	80.98
平均値		443	1.74	15.35	3.25	24.54	21.09	39.46	177	27.65	107.05

表2 繁殖専門農場ーⅡ（分娩・離乳後、子豚を育成し出荷している農場）

	件数	母豚数	分娩回数／年		離乳頭数／母豚		出荷子豚数／母豚		A薬品費／子豚		生産指数
	10	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	282	20.00	100.00
A	3	886	2.37	20.65	22.67	20.13	21.65	40.41	54	36.16	117.35
B	3	958	2.33	20.22	22.12	19.64	20.67	38.59	145	29.75	108.19
C	2	1,131	2.32	20.17	22.66	20.11	20.80	38.84	227	23.93	103.04
D	2	784	2.35	20.44	22.84	20.28	20.46	38.19	296	19.01	97.92
最高成績			2.44	21.24	24.39	21.65	23.55	43.96	44	36.91	123.45
最低成績			2.20	19.09	20.87	18.53	17.37	32.42	337	16.13	93.71
平均値		936	2.34	20.38	22.54	20.01	20.95	39.10	164	28.36	107.85

表3 繁殖専門農場ーⅠ（分娩・離乳後、直ちに子豚を出荷している農場）

	件数	母豚数	分娩回数／年		離乳頭数／母豚		出荷子豚数／母豚		A薬品費／子豚		生産指数
	5	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			2.30	20.00	22.53	20.00	22.53	40.00	196	20.00	100.00
平均値		894	2.44	21.19	24.85	22.06	24.85	44.12	100	29.77	117.13

表4 子豚育成農場（繁殖農場ーⅠから離乳子豚を導入し、肥育用素豚として出荷している農場）

	件数	出荷頭数	1日平均増体重(g)		出荷率		A薬品費／子豚		生産指数
	2		実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			445.00	40.00	95.00	40.00	98	20.00	100.00
平均値		48,467	560.57	50.39	98.72	69.74	89	21.92	142.04

表5. 肥育専門農場ーⅡ（繁殖農場ーⅡまたは子豚育成農場から豚を導入し、肥育している農場）

	件数	出荷頭数	農場飼料要求率		出荷率		A薬品費／肉豚		生産指数
	14	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			3.30	55.00	97.50	25.00	125	20.00	100.00
A	4	7,941	3.12	58.12	98.62	36.18	104	23.34	117.64
B	4	15,119	3.70	48.50	97.38	23.51	120	20.84	92.94
C	3	4,921	3.51	51.58	97.05	20.52	156	14.98	87.07
D	3	11,766	3.96	44.01	97.20	21.98	132	18.96	85.13
最高成績			2.48	68.72	99.30	43.00	0	40.00	146.17
最低成績			4.19	40.17	96.29	12.85	192	9.21	84.73
平均値		10,164	3.55	50.94	97.62	26.16	126	19.90	97.07

表6. 肥育専門農場ーⅠ（繁殖農場ーⅠから子豚を導入し、肥育している農場）

	件数	出荷頭数	農場飼料要求率		出荷率		A薬品費／肉豚		生産指数
	1	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			3.25	55.00	95.00	25.00	223	20.00	100.00
平均値		8,534	3.24	56.00	94.95	24.75	8	39.25	119.15

表7. 肉豚または子豚1頭当たりA薬品費使用

一貫生産農場

薬品費／肉豚	農場数	平均金額
100円未満	42	50
100円～199円	29	143
200円～299円	21	253
300円～399円	17	355
400円～499円	7	418
農場数	116	177
最　高		0
最　低		439
上位25％の平均		55

繁殖専門農場・子豚育成農場

薬品費／子豚	農場数	平均金額
100円未満	9	75
100円～199円	4	121
200円～299円	2	251
300円～399円	2	328
400円～499円		
農場数	17	136
最　高		44
最　低		337
上位25％の平均		54

肥育専門農場

薬品費／肉豚	農場数	平均金額
100円未満	4	49
100円～199円	11	143
200円～299円		
300円～399円		
400円～499円		
農場数	15	118
最　高		0
最　低		192
上位25％の平均		104

連載
豚の細菌病⑩

豚萎縮性鼻炎②

東京農業大学教授　山本　孝史

対　策：本病の原因は前号に記したように*Bordetella bronchiseptica (Bb)*および毒素産生性の*Pasteurella multocida (Pm)*ですので、これら２菌種から作られたさまざまなワクチンが市販されています。細菌のワクチンは通常は菌を死滅させた（不活化した）ものが使われることが多いのですが、本病では、それぞれの菌が産生する皮膚壊死毒素（DNT）（*Bb*と*Pm*が産生するDNTは同じではありません）を取り出して、免疫（抗体）はできるが毒性をなくしたもの（トキソイドといいます）をワクチンとしたものもあります。これは、これら２菌種の病原性にDNTが大きく関与しているからです。また、*Bb*では、同じく病原性に関与するタンパク質（フィラメント状赤血球凝集素）を取り出してワクチンとしたもの（成分ワクチンあるいはコンポーネントワクチンといいます）もあります。さらに*Bb*と*Pm*の死菌あるいはトキソイドを混合したものもあり、多種類のワクチンが市販されています。しかし本病の予防上第一に重要なことは、分娩６および２週前の母豚に*Bb*の菌体成分を含むワクチンを接種して母豚の抗体価を高く上げ、母豚からの移行抗体により哺乳期の子豚が*Bb*に感染するのを防ぐことです。移行抗体は１～２ヶ月でその効果がなくなりますが、以後感染しても*Bb*単独感染の場合は発症することはありません。*Bb*のDNTは、幼弱豚にしか作用しないからです。しかし*Pm*のDNTは、年齢に関係なく鼻甲介の萎縮を来しますので、農場に毒素産生性の*Pm*が存在する場合は、子豚が４～８週齢に達した時点で*Pm*のトキソイドワクチンを接種することが必要です。すなわち、母豚免疫による移行抗体で子豚の*Bb*感染を予防し、*Pm*による進行性ARは、*Pm*トキソイドワクチンによる能動免疫で防ぐのが、ARのワクチンによる対策の基本ということになります。

抗菌剤による予防・治療も有効です。古くより本病の予防や治療にはサルファ剤や強化サルファ剤（サルファ剤とトリメトプリムあるいはオリメトプリムの合剤）あるいはテトラサイクリン系薬剤が使われ効果を挙げてきました。一方、豚由来*Bb*の多くが試験管内でサルファ剤に耐性を示すことから、その効果を疑問視する向きもありますが、*Bb*の発育は阻止しなくても*Bb*が細胞に付着するのに必要なタンパク質（シアル酸結合型赤血球凝集素）の発現を阻害することにより、鼻粘膜に定着するのを抑制することが明らかにされています。したがってサルファ剤では、試験管内における抗菌力と生体での効果は並行しないと考えられます。一般に母豚には分娩前１ヶ月間サルファ剤（400～2,000 ppm）あるいはオキシテトラサイクリン（400～1,000 ppm）を飼料添加剤として投与し、哺乳豚には生後２日目から１週間に１～２回、持続性オキシテトラサイクリン（20～80 mg/kg）や強化サルファ剤（スルファジアジンまたはスルファドキシン12.5 mg/kg＋トリメトプリム2.5 mg/kg）を注射することにより母豚からの垂直感染を抑制することが可能です。哺乳豚にはオキシテトラサイクリンやカナマイシンの鼻腔内噴霧（週２回）や強化サルファ剤の飲水添加も効果があります。哺乳豚への投与期間はいずれも３～６週間です。

以上に加えて飼養管理面からの対策が重要なことはいうまでもありません。本病は前述のように母豚から哺乳豚への感染を防ぐのが対策の基本ですので、特に分娩舎の衛生管理を入念に実施するとともに、繁殖候補豚の導入に際しては検疫と検査により*Bb*および毒素産生性*Pm*を保有していないことを確認することが大切です。

＜参考文献＞
Freddy, H. et al. (2004). Efficacy of vaccine against bacterial diseases in swine: what can we expect? *Veterinary Microbiology*, 100, 255-268.

◆先進的ＳＰＦ豚農場紹介◆

農事組合法人八幡平ファーム（岩手県洋野町）

常務理事大泉　俊昭

大泉俊昭（おおいずみとしあき）
昭和62年岩手大学農学部獣医学科卒業、全農入会。平成16年退職、秋田県の八幡平養豚組合へ。平成18年、母豚1,630頭の最先端設備を備えた八幡平ファームを立ち上げ、長年の夢であった農場経営を実現させた。平成21年4月には肉豚週800頭出荷体制となり、その成績は全国でもトップクラス。日本養豚界のニューリーダーとして期待されている。

秋田県鹿角市にある、私たちが本体と呼んでいる八幡平養豚組合（八幡平ファームの母体）も協会と同じく、平成21年に創立40周年を迎えました。

八幡平養豚組合には300頭規模の農場が５農場ありますが、どの農場も平成10年以降１母豚当たりの肉豚出荷頭数が24頭を下回ったことは一度もありません。八幡平ファームは八幡平養豚組合の６番目の新農場として、本体が築いてきた40年の技術の集大成という位置付けで立ち上がった農場です。

八幡平ファームのシステムでは阿部日出夫組合長が方向を示し、私が現場にその流れを指示、場長が職員とともに現場で実践していきます。私は農場の状況を、もちろん現場も見ますが、いろいろな角度から数値化し、把握するようにしています。**母豚1,600頭、年間肉豚出荷4万,500頭、飼料要求率3.02、１母豚あたり肉豚出荷頭数25頭**という数字から、おそらく今やっている方向が間違っていないのではないか、という自信を持っています。

職員は20人、うち16人を地元で採用しました。条件は未経験者であること。地元役場の協力で22、3歳を中心とした若い人が入ってくれました。その若い職員がこの４年半で実質的に出してきたのがこの成績です。

職員に徹底させているのは二つです。一つはあいさつ。職員同士はもちろん、来場者にも大きな声で元気にあいさつするようにしています。もう一つは長靴を揃えることです。突然の来客にも慌てることのない、玄関に靴がきちんと並んでいる状態、皆さんも自宅でできているでしょうか。

何でこんなことを、と思われるかもしれませんが、20数歳の若者集団の場合、こうした基本的なことにけじめをつけられなければ、仕事につながらないのです。

現場では、基本的には種付のプロとか、分娩のプロはつくりません。どの部署でメンバーが変わってもそれまでと同じ成績が出せるようにするという方針です。それぞれの部署の職人をつくったのではなく、システムをつくったということです。あと２人異動させれば、全員がすべての部署を経験することになります。

日々の作業の中で、もし手が空いている部署があれば、すぐ忙しい部署に移動させることができる。全員がスーパーサブ、どの部署の仕事もプロとしてこなせるのを目指しています。

八幡平ファームでは本体とは別の種豚を導入しました。長年の高成績もあり、相当自信を持って臨みましたが、同じ豚なのに、発情も再発もちがう。指導してくれる人もおらず、ましてどんな成績を出すのかもわからない。たとえば私は場長に「この豚は9.9頭しか離乳しないから心配するな」と言い張って、豚舎設計もその数字に基づいて行った。ところが10.5頭離乳してしまい、豚舎が混んでどうしてくれるんだ、といわれたこともありました。そこで、今まではこうだった、というのを基本的に除外しこの豚に合った方法をゼロから考えることにしました。

種豚の能力がない、エサが悪い、豚舎が悪いなどと、つい言いたくなるのですが、そうではなかった。今の時代に能力のない種豚などいないはずです。使いこなせない、わからないだけです。エサにしてもどんなエサか中身を理解しないまま文句をいう方が悪いのだとわかりました。また、現在リキッドフィーディングを採用していますが、全国的にみてもだめだと評価をする人もいます。使いこなせないだけだと思います。

種豚にしても、豚舎システムにしても、今まで培ってきた技術の積み重ね、それなりの意味があって進化してきているわけです。使えない我々が悪いのだという前提に立って解決策を講じないと、それこそ自分が損するだけだ、と思っています。

悪口を考えるのではなく、どうやったら使えるのだろう、力を発揮するのだろうと考えるほうがいい。職員もそうです。ある部署だとなかなか力を発揮できない職員が、他の部署だとすごい力になることもある。一人一人が個性を発揮する。人にしても豚にしても能力は持っているはずです。そうした前提に立たない方が悪い、と思っています。（以下次号）

紹介●ＳＰＦのお店⑪ ナショナル麻布

東京都港区南麻布4-5-2
http://www.national-azabu.com

東京の地下鉄日比谷線広尾駅周辺、麻布界隈といえば、各国の大使館が集まることで知られ、国際色豊かなおしゃれな街。そんなセレブ感あふれる場所に古くからあるのが高級スーパー「ナショナル麻布」です。麻布の地に店を構えて50年だそうです。

店内は客の６、７割が外国人とあって輸入食材の品揃えが豊富ですが、精肉売場の豚肉は国産が８割以上を占め、しかもＳＰＦ豚のみ。ふなばやし農産、ユキザワ玉川農場、シムコ岩出山事業所、同浪江事業所など東北地区の認定農場産が「みちのく燦然豚」として並んでいます。ＳＰＦ豚を扱い出して約１年、豚肉の仕入れ先の変更を検討していたところへ伊藤忠飼料㈱東日本食肉課の熱心な営業が実りました。

荒木慎吾・精肉部長（ナショナル物産㈱スーパー事業部、麻布店店長補佐）に評判を聞いたところ「舌の肥えた、肉にはうるさい外国のお客さんが、日本にもこんなにおいしい豚肉があったのか、といいます。特にバラ肉、普通外国人には人気がないのですが、この肉にしてからはよく出ます。自信を持って売っています」。大使館付きのシェフなど専門家の評判も上々で、世界同時不況の影響もあり店全体の売上が伸び悩む中、国産豚肉は好調だそうです。

ナショナル麻布精肉部長の荒木慎吾さん。さすがナショナル、プライスカードやポップも英文表示付き

「まずは手にとって味を知ってもらうため利幅は少なくても価格を抑えて販売してますが、これだけおいしい豚肉なのだからそれなりの値段はするのが当然。安ければいいというものではない。生産者の方も自信を持って、これからも安心・安全な豚肉をつくって下さい」とうれしいエールをいただきました。

●協会からのお知らせ●

●40周年記念刊行物が完成いたしました

協会設立40周年を記念し、制作が進められておりました技術本『ハイヘルス養豚への挑戦―健康優良豚ＳＰＦ豚40年の軌跡と将来展望』（監修：山本孝史、発行：アニマル・メディア社）が完成の運びとなりました。ぜひご購入下さい。お問い合わせは事務局または各ピラミッドまで。

●地域研修会を４月に福岡で実施します

近畿・中四国地区と九州地区合同の地域研修会を４月28日（水）、福岡市で実施いたします（継続事業）。

該当地区の会員の皆様にはすでにご案内をお送りしております。多くの方の参加をお待ちしております。

●理事の交代

組織内人事異動に伴い、伊藤忠飼料ピラミッドの理事が三枝泰裕氏から岩崎和也氏に交代いたしました。

●代議員会を６月に開催

今年度の代議員会（社員総会）を６月10日に予定しております。次号に詳細を掲載いたします。

●ＳＰＦ豚研究会から●

●研究会が6月25日に開催されます

第20回日本ＳＰＦ豚研究会が6月25日（金）、東京都千代田区の学士会館にて開催されます。今年は研究会設立20周年記念大会で、会場も例年と異なります。研究会会員の方は参加費は無料です。詳細は５月以降決定されますので、**日本ＳＰＦ豚研究会事務局**（伊藤忠飼料㈱研究所内）までお問い合わせ下さい。

TEL：0287―64―3652　FAX：0287―63―8384

かんたん、おししい　いのこ家林シェフおすすめ、ＳＰＦポークレシピ

ＳＰＦポークたっぷりタコライス

レシピ提供：林　勝

今回は沖縄名物でもあるタコライス。
ＳＰＦポークのひき肉をたっぷり使ってつくるのでおいしさが違います。
ボリュームがあって野菜もしっかりとれるのでバランス満点、しかも簡単です。
ぜひ、お試し下さい。

材料（4人前）

ＳＰＦ豚ひき肉　400g
ご飯　3合
レタス　2分の1個
きゅうり　1本　トマト　1個　レッドキャベツ　少々　クレソン　少々
ケチャップ　大さじ1　酒　少々　にんにくパウダー・黒こしょう　適宜
とろけるチーズ　20g　サルサソース　少々

つくり方

① フライパンを温め、ひき肉を炒めます。
② ①に酒、にんにくパウダー、黒こしょうを入れさらに炒め、ケチャップを加えて混ぜ合わせすぐに火を止めます。
③ レタス・きゅうり・レッドキャベツは食べやすい大きさに切り、水にさらしてシャキッとさせ、そのあとよく水を切ります。
④ トマトはサイコロに切ります。
⑤ お皿に焚きたてご飯を盛り、野菜を散らします。その上にとろけるチーズをのせ、さらに②を散らします。
⑥ トマトを散らし、サルサソースをかけ、クレソンをのせたらでき上がりです。

【林シェフのひとこと】
ひき肉を炒めるときは、弱火でじっくり炒めるとしっとり仕上がります。

●認定情報●

●平成22年度認定農場

[3月認定](有効期間：平成22年3月11日から23年3月31日まで)

北海道・ＪＡ全農種豚開発センター、**秋田県**・㈲十和田湖高原ファーム、全農畜産サービス㈱由利本荘ＳＰＦ豚センター、㈱シムコ雪沢ＧＰ、**宮城県**・サンエス丸森農場、**山形県**・㈱ナカショク鶴岡肥育農場、**茨城県**・㈲中村畜産、全農飼料畜産中央研究所、**千葉県**・飯田武雄養豚場、石毛章俊養豚場、平野英夫ＳＰＦ豚農場、鈴木良雄養豚場、飯田養豚、㈱シムコ館山事業所、㈲ピギー・ジョイ繁殖農場、㈲ピギー・ジョイ肥育農場、㈲伊藤養豚飯岡農場、㈲鏑木ピッグファーム、**長野県**・(農)エスピーエフこがねや第二農場、ＪＡ全農長野ＳＰＦ繁殖センター、ＪＡ大北白馬アルプス農場、**富山県**・㈱シムコ八尾育種改良センター、**島根県**・奥出雲ファーム㈲、**愛媛県**・ＪＡえひめアイッパクス㈱天貢農場、**熊本県**・全農畜産サービス㈱西日本原種豚場、新古閑養豚(農)、㈲七城ＳＰＦファーム、㈲やまとんファーム、㈲ピッグファーム陳、**宮崎県**・㈲守山畜産、**鹿児島県**・鹿児島いずみ畜産㈱出水農場、鹿児島いずみ畜産㈱阿久根農場　(以上32農場)

※次回認定委員会は平成22年6月3日の予定

SPFのひと

㈲ケイアイファウム

高橋　正さん

●岩手県北上市

厳しい試練は成長のため 必ず解決できる―との信念で

岩手県の南西部に位置する北上市に本社を置く、㈲ケイアイファウムの社長、高橋正さんは、昭和49年に北里大学の獣医学部を卒業した後、神奈川県の養豚場で１年間研修され、その後米国のアイオワ州の養豚場に１年間武者修行に出かけました。「今思えば大変貴重な経験だった」とおっしゃいます。帰国後、現在の会社の前身のである㈲北上中央養豚に入社、平成19年４月にケイアイファウム５代目社長に就任されました。

大学時代は野球部に在籍し、現在は時間があまりとれないようですが、硬式テニスを趣味としているスポーツマン。ご家庭では現在の少子化に相反し、２男２女、４人のお子さんのお父さんです。

社長就任後、北上農場で火災により２棟の豚舎と肉豚を消失したり、穀物相場の高騰で配合飼料の価格が暴騰するという大変な出来事がありました。しかし、高橋さんは「人は成長するために、一人ひとりに神様から試練が与えられる。しかし、神様は解決できない問題は与えない！今まで自分が間違った考えをしていなかったか考えればいい。そして、新たな考え方、行動をとればイイのだ！」との信念で取り組んでいます。

農場経営の一番の目的は、約30名の従業員の安定した生活を保障すること。それには働きやすい社風・環境を整えることだとおっしゃいます。

さらに、地域への気配りなしではこれからの養豚は継続できない、できる限り注意を払っていく、との考えです。

農場は、北上市内と県北の盛岡市玉山区（旧玉山村）の２か所にあり、合わせて1,200頭の一貫経営ですが、両農場ともに冬はかなりの積雪量になります。特に今年は近年になく雪の量は多いように私には感じられました。いかに雪国の方々とはいえ、通勤にはかなりの神経をつかうようです。お邪魔した３月５日、水沢までは晴れていたのが、北上に入ったとたん景色が雪国となりました。

肉豚の出荷は東京食肉市場㈱と地元の２か所。東京食肉市場では、「岩中ポーク」の銘柄で長年出荷しており、高い評価を受け続けています。昨年10月の第27回東京食肉市場銘柄豚協会枝肉共進会でも最優秀賞を受賞されました。

高橋さんはじめ従業員の皆さん揃って「これにおごることなく、これからも買参人・消費者の意見に耳を傾け、常に皆で話し合い、よりよい方向に改善していかなければ」とおっしゃいます。ここ１年半以上、飼料の高止まりと豚価の低迷が続き、養豚家すべてが厳しいけれど、ここでもうひと頑張りしなければ―と。

（㈱サンエスブリーディング　佐野　公春）

編集後記

「百聞は一見に如かず」はよくご存知だと思います。そのあとに「百見は一考に如かず、百考は一行に如かず」と続きます。聞いたり見たりも大切ですが、自分の手足を使い実行することは基本の基本、ということでしょうか。手先や足に刺激を受けると、人間の脳は活性化します。養豚の現場作業は脳の活性化に適した場所ではないでしょうか。猪突猛進ではなく、「百行は一慮に如かず」もよく理解し、日々“新しい”を実感しながら新年度にポジティブかつアグレッシブに取り組みたいですね。（世）

日本ＳＰＦ豚協会認定農場産シール

このマークは

日本SPF豚協会 の

登録商標です

日本SPF豚協会だより
第39号　2010年4月1日発行（季刊）
発　行　一般社団法人 日本ＳＰＦ豚協会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375　FAX.03-5835-5376
e-mail：j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人　赤池　洋二
編集人　藤田　世秀